キャリア成熟度が大学適応に及ぼす影響

中岡千幸

(東北大学高度教養教育・学生支援機構)

キーワード: キャリア成熟度、大学適応、休学

Effects of Career Maturity on Subjective Adjustment to School

ChiYuki NAKAOKA

(Tohoku University)

Key Words: Career Maturity, Subjective Adjustment to School, Temporary Absence of School

目 的

文部科学省の平成 28 年度学校基本調査の速報によると、高校から大学・短期大学への進学率（現役）は過去最高の 49.8% となった（文部科学省、2016）。このような進学率の上昇により、学力、学習意欲、進学動機等が異なる、多様な学生が大学に入学してきており、大学生生活への適応が上手くできず、休学する者や退学する者が増加傾向にある。また将来のキャリアプランについても十分見通しを持たないまま入学してくる学生は少なくない。そのため、大学では、学生が大学生生活に適応できるように、また、その後の自分の将来の人生や生き方を考え、その実現のために自らの大学生生活を自立的に歩めるように、支援することが課題となっている。

本研究の目的は、キャリア成熟度（人生や生き方への取り組み姿勢）や学習意欲が、大学適応（大学適応の指標に、適応感、授業への出席状況、休学願望、中途退学願望を用いる）に及ぼす影響について検討することである。

方 法

調査対象者 調査対象者は、『学生生活概論：学生が会う大学生生活の危機と予防』を受講する大学生 131 名（男性 6 名、女性 1 名）だった。なお、回答に欠損値のあった者を除く 124 名（男性 83 名、女性 41 名）を分析対象とした。対象者の平均年齢は 18.33 歳（ $SD=0.68$ ）であった。

調査手続き 2017 年 5 月、講義終了後に集団形式で無記名自己記入方式の質問紙調査を実施し、その場で回収した。

質問紙の構成 ①**キャリア成熟度** 坂柳（1999）の成人キャリア成熟度尺度（27 項目、5 件法）。この尺度は、「人生キャリア関心性」、「人生キャリア自律性」、「人生キャリア計画性」の 3 つの下位尺度から構成される。②**大学適応** 大久保（2005）の青年用適応感尺度（30 項目、5 件法）。この尺度は、「居心地の良さの感覚」、「課題・目的的存在」、「被信頼・受容感」、「劣等感の無さ」の 4 つの下位尺度から構成される。

③**学習意欲** 下山（1995）の学習意欲尺度（15 件法、5 件法）。

④**授業への出席状況** 今学期の授業への出席状況について尋ねた（1 項目、6 件法）

⑤**課外活動への参加状況** 今学期の課外活動への参加状況について尋ねた（1 項目、6 件法）

⑥**退学願望** 現在退学願望がどの程度あるのか尋ねた（1 項目、4 件法）。

⑦**休学願望** 現在休学願望がどの程度あるのか尋ねた（1 項目、4 件法）。

⑧**大学卒業後の進路** 大学卒業後の進路について尋ねた（1 項目、3 件法）。

⑨**進路の明確さ** 大学卒業後の進路について、どの程度ははっきりしているのか尋ねた（1 項目、4 件法）。

⑩**基本的属性** 調査対象者の属性として、性別、学部、学年、年齢を尋ねた。

結 果

各変数の平均値及び標準偏差 それぞれの尺度の合計得点（以下、尺度得点）および下位尺度得点の平均値と標準偏差

をそれぞれ算出した。また、全ての変数で、男女差があるか t 検定を用いて比較したところ、尺度得点に性差は見られなかった。そのため、その後の分析は全て男女込みで行った。

大学適応と他の変数との関連 適応感尺度得点及びその下位尺度得点、授業出席状況、休学願望、中途退学願望と、それらに影響を及ぼす可能性のある、キャリア成熟度尺度得点及びその下位尺度得点、学習意欲尺度得点及びその下位尺度得点といった各変数との相関係数を算出した。その結果、適応感尺度得点とキャリア成熟度尺度得点とその下位尺度得点の間に $r=.26$ ($p<.01$) $\sim r=.39$ ($p<.01$) と弱から中程度の正の相関が見られた。また、適応感尺度得点と学習意欲尺度得点の間に $r=.46$ ($p<.01$) と中程度の正の相関が見られた。また、授業出席状況とキャリア成熟度尺度得点の間に $r=.21$ ($p<.05$)、授業出席状況とキャリア尺度の「人生キャリア関心性」の間に $r=.22$ ($p<.05$) と弱い正の相関が見られた。また、休学願望とキャリア成熟度尺度得点の間に $r=-.28$ ($p<.01$)、休学願望とキャリア尺度の「人生キャリア関心性」の間に $r=-.24$ ($p<.01$)、休学願望とキャリア成熟度尺度の「人生キャリア自律性」の間に $r=-.33$ ($p<.01$) と弱い負の相関が見られた。また、中途退学願望とキャリア成熟度尺度得点の間に $r=-.21$ ($p<.05$)、中途退学願望とキャリア成熟度尺度の「人生キャリア自律性」の間に $r=-.23$ ($p<.05$) と弱い負の相関が見られた。さらに、授業出席状況と学習意欲尺度得点の間 $r=.52$ ($p<.01$) と中程度の正の相関が見られた。なお、退学願望と学習意欲尺度得点の間に相関は見られず、休学願望と学習意欲尺度得点の間にのみ弱い負の相関が見られた ($r=-.21$, $p<.05$)。

考 察

大学適応の指標と、それらに影響を及ぼす可能性のある変数との関連を検討したところ、キャリア成熟度や学習意欲は、大学適応や授業への出席状況と正の相関が、キャリア成熟度（特に人生キャリア自律性）や学習意欲は、休学願望や中途退学願望と負の相関が見られた。以上のことから、今後、休学や中途退学を防止するためには、いかに授業に関心を持つて貰うか、という視点だけでなく、学生の自律性や主体性をどう育むかという視点が重要であると考えられる。

引用文献

大久保智生(2005). 青年の学校への適応感とその規定要因—

青年用適応感尺度の作成と学校別の検討—, 教育心理学研究, 53, 307-309.

文部科学省(2016). 学校基本調査 平成 28 年度学校基本調査 (速報値) の公表について. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2016/12/22/1375035_1.pdf (2017 年 1 月 29 日確認)